

# 図書館のイチオシ



サンタさん  
私にもおくれ。



ザ・ママの研究《理論社》信田さよ子/著

ママの研究？何それ？誰もがそう思わずにはいられないこのタイトル。実際、いろんなママの紹介があって、面白おかしい本かと思っちゃうけど、そうじゃない。作者の信田さんは原宿カウンセリングセンターの所長さんで、10代、20代～50代になってまでも母親との関係に悩む女性を何人も見てきた人だ。今まで母親を対象にした研究の本なんて見たことある？この本がたぶん、はじめての「ママ」の研究書だと思う。「ワタシはママとうまくいってるから、関係ない」そう思っているアナタも、今のうちに自分と母親との関係を見直ししておくのは、絶対損ではない。その家庭ではフツーと思っていたことが、案外フツーじゃなかったってこともあるんだよ。



【367/サ】



## イチオシ担当から一言♪

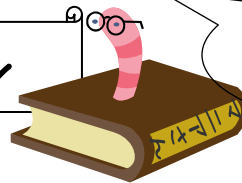


実際、ママとトラブルになっている人を知っています。母親に管理されて生きてきて、人生の後半に来て心の病になり、心療内科に通って薬も飲んでいました。ただ、だからお母さんに反抗しなさいと言ってワケじゃなく、一度親子関係を見直してみるの、悪いことではないと思うんだよ。そんな良いきっかけや、本との出会いのきっかけづくりができれば、ウレシイな。



ときどき本、  
ときどきDVD

# PAPAのイチオシ



「ザ・パパ」の研究も  
あるのかしら…

山猫【DVD】ルキーノ・ヴィスコンティ/監督

19世紀後半、祖国統一と貴族支配からの解放を唱えるガリバルディ率いる赤シャツ隊の攻勢により混乱の続くイタリア。シチリアの貴族サリーナ公爵家で徐々に進む没落を約3時間にわたって描く大作です。日本の某大政治家が「変わらず生きていくためには、(自分が) 変わらなければ」という、この映画でイケメン俳優アラン・ドロンの語るセリフを、選挙演説で引用したとか…。

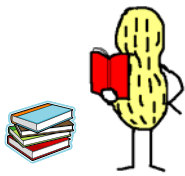
はっきりいってこの映画は、ストーリーをいちいち追うものではございません。そんなことよりも、全体を俯瞰しながらも一人ひとりの兵士の動きまで細かく見通せるような戦闘シーン(いったいどーいう演技指導をしたんだろ…?)。厳しく荒涼として、しかしまぶしく鮮やかな黄金色の大地と青い空、その激しいコントラスト。これでもかとはばかりに美術品に囲まれた数々の大広間。その中を優雅に行き来する貴族たち(エキストラの大半は実際にシチリアの貴族出身者だったそうなの)、豪華という表現では全く物足りない、すごすぎる衣装。そしてラストの、もしかして時間の無駄なのでは?と思えるくらいに長〜い長〜い舞踏会、などなど。めくるめく映像美に酔っていただければ、もうそれで充分。なお、パパのイチオシは、ちよいと品のない成金娘を演じたクラウディア・カルディナーレ! 下唇を噛みながらの上目使いの微妙な表情に、もうドッキドキさっ!!

【DVD 778.2ヤ】



いい子にしてるから!





# 図書館のイチオシ



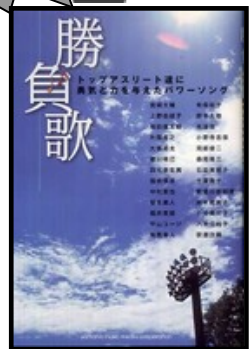
やっと、  
秋が来た…。

## 勝負歌《ヤマハミュージックメディア》

読書の秋、芸術の秋、そしてスポーツの秋。気候が良くなり、イロイロなことにチャレンジできそうな気分。みなさんは、ココロという勝負時に聞く音楽とあってある？確かに、聞いていると落ち着いたり、集中できたりする音楽ってあると思う。テレビで時々スポーツ選手が試合前に何か聞いているのを、見たことがあるよね。あれって、一体何を聞いているんだろうって気になるよねえ…。プロハンドボールの宮崎選手や女子ソフトボールの上野選手などの勝負歌と、どうしてその曲が勝負歌なのかが紹介されています。「え?! 意外。」

「あ。私と一緒に。」なのが、あったりするかもだ。

【L780.2/シ】



## 兄妹パズル【ポプラ社】石井睦美/著

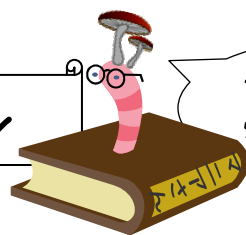


おっとりとした美人の母親と仕事からまっすぐに家へ帰ってくる（美人の妻が心配だから？）父親、弁護士を目指す頭の出来と母親似で顔のいい上の兄、Jリーグからスカウトがくるかもというサッカーの上手いスポーツ万能で明るい性格の下の兄と主人公の5人家族。家族仲良く、何の問題もなく過ごしてきた主人公の垂実（高2）だったが、何の前触れもなく下の兄が家出をしたことから、家族の秘密が少しずつ明らかになってゆく。「どうして?」「なんで?」と思いつつ、あっというまに読めちゃうよ。親友の美少女ユッコの意外にも毒舌な感じとか、潔い行動がかなりツボ。文章が、重くなく物語の終わり方もさわやかで、うーん、秋の晴れた空！

【913.6/イシ】

ときどき本、  
ときどきDVD

# PAPAのイチオシ



食べて、読んで、観て、  
寝て。これが幸せ。

## 黄土の奔流【中公文庫】生島治郎/著

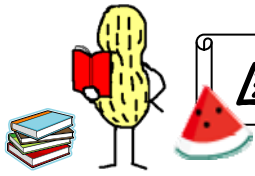
第一次世界大戦後の上海。小さな商社の跡取り息子紅真吾は、折からの不況で破産してしましますが、ひょんなことから窮地を救った大手商社マンから、命の保障はないけれど、儲けたお金で会社の再起もできそうなビジネスを紹介されます。それはなんと、極上の豚毛(!)を、揚子江を一千キロ以上遡って入手し、無事上海まで持ち帰ること。何でも日本が外貨を得るための貴重な輸出品である歯ブラシには、この豚毛が欠かせないんだそう。しかも折からの関東大震災で、豚毛の価格は高騰していて、最高級モノは冗談抜きで黄金より高いとか!しか~し!、そこにたどりつくまでには、危険な激流だけでなく、情け容赦ない軍閥や土匪も待ち受けている…。というわけで、氏素性は相当にあやしいけれど、中国語が堪能で度胸と能力があるってことで集められた、一攫千金を夢見る男たちが、命がけの冒険へと船出します。おそいかる危険をひょうひょうと切り抜ける真吾、いつでも裏切りそうな言動を繰り返しながら、肝心なところで役に立つ葉村宗明、その他癖のあり過ぎる野郎ども…。荒っぽくて、細かいことは気にせず、爽快で、でもどこか哀愁漂う冒険が、今では想像もできないくらい悲惨な状況下にあった中国を舞台に、繰り広げられていきます。失うものなど何ひとつなくなったときの「冷めたスリル感」、この本で味わえるかも。【自動書庫 B913.6 イク】



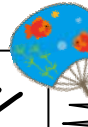
# くりきんとおーん!



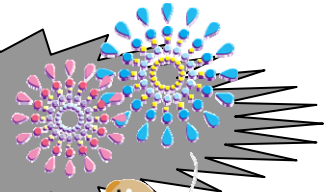




## 図書館のイチオシ



気分は、  
打ち上げ花火☆



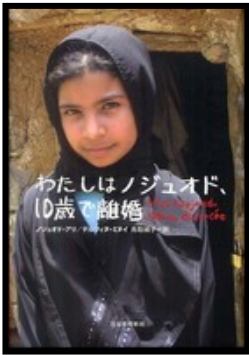
世界のシェー!! 《理論社》平沼 正弘／著

ティーンズに「シェー!!」って言って、通用するのかどうか少々不安だけど、まあいいか。この本は、タイトルの通り世界中の人たちが「シェー!!」をしている写真がめくってもめくっても出てくる本なのだ。子どもたちや、売り子さん、工事現場のおじさん、家族で、カップルで、民族衣装で、ホームレスで、路上で、草原で、世界遺産の前でもどこでも「シェー!!」をしている。その人たちの詳しいことや場所について多くは書かれていないけれど、その写真や表情からはいろんなことを思い巡らせる。巻末の解説では、とてもまじめにシェーの手順が文章化されており、それだけでもかなり笑える。

【748／セ】

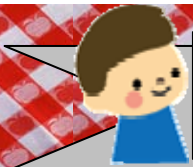


わたしはノジュオド、10歳で離婚【河出書房新社】ノジュオド・アリ、デルフィ・ミヤイ／著



10歳で、離婚。まだ子どもなのに、家の事情などで自分の年齢の20も25も年上の男性と結婚させられる、そんな国が今でもある。ノジュオドも、普通の女の子だった。学校へ通い、海に憧れ、そしていつか大きくなったら自分はみんなから祝福されて、ショーウインドウに飾られているようなドレスを着て甘いお菓子里に囲まれて結婚式をあげるのだと…。ところが、急に父親から年が20近くも離れた会ったこともない男と結婚するように言われる。学校を辞めさせられ、仲良しの友だちとも離れ離れ。新しい家族からしたら、養女のような感覚なのかと思ったら、大間違い。10歳だからといって、子どもの扱いではなく、完全に「嫁」となるのだ。お姑さんからはこき使われ、夫からはDVを受ける。そして彼女は、勇気をふりしぼって裁判所を訪ねた…。さて、判決はいかに?!

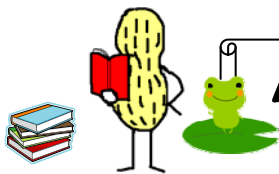
【324.9／7】



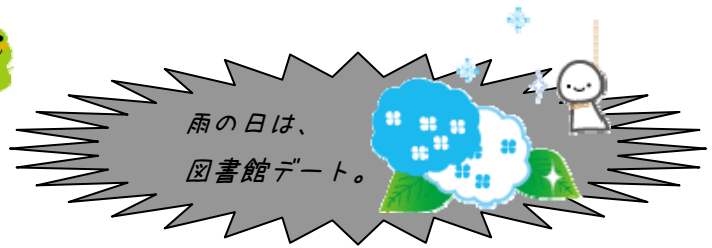
花火大会、一緒に行こっ☆

りぶらで待ち合わせね♪…っていうの、どうよ。





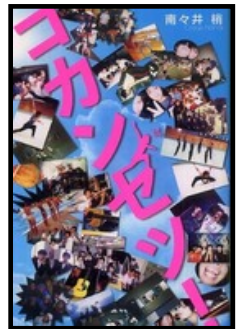
## 図書館のイチオシ



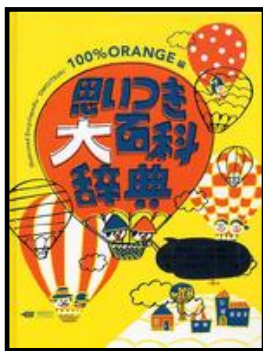
雨の日は、  
図書館デート。

### コカンセツ《徳間書店》南々井梢／著

舞台は夏。高校の男子新体操部 (!) の『ハイスクール! 奇面組』(『3年奇面組』の続編。その昔週刊少年ジャンプで連載) を思わせる超個性的な部員たち (マネージャーも相当なキョーレツキャラ) が、3年のキャプテン、顧問の先生、キョーレツマネージャーの大会遠征中に革命を起こす。その革命の内容は、男子新体操部をHIPHOP部に変えてしまおうという計画なのだ。男子新体操そのものが一体どんなものなのか、そしてその革命が、はたして上手くいくのかは読んでからの楽しみ。出だしは、映画化された『おっぱいバレー』(水野宗徳・著、泰文堂・刊) に、ちょびっと似ているので、『おっぱいバレー』を読んで面白かった人にもおススメ。2009年にトクマ・ノベルズEdg e新人賞(第6回)受賞。【F913.6/ナナ】



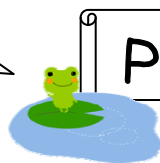
### 思いつき大百科辞典《学習研究社》100%ORANGE／編



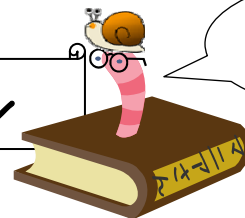
雨が降っているような日に、ぴったりの本。50音に半音・濁音も含めた文字で思いつくままの単語とイラストが1ページにぎっしり! 子ども向けのあいいうえお本だと思っちゃダメ。「えっ?」と思うような意外にブラックな単語やイラストに思わず吹き出してしまうから、牛乳を飲みながら読むのは厳禁だ。よくよく見ると複数のページに登場するキャラクターのような人を発見できたり、情けないけどオモシロい人を発見できたりするので、友達またはカップル同士頭をくっつけあって読むと楽しい。ストーリーはないので、どこから読んでもどこで閉じてても問題なし。くつろげる時間があれば、その時間分楽しめる。

【JE/オ】

ときどき名作  
たまには迷作



## PAPAのイチオシ

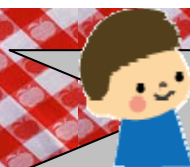


テ、テ、ティーンズ  
コーナーで待ってるね

### バルカン超特急 [DVD] アルフレッド・ヒッチコック監督

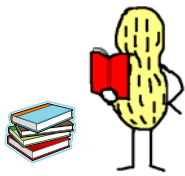
バルカン地方のとある国からロンドンに向かう国際列車内が舞台。ヒロインのアメリカ人富豪令嬢アイリスは、親切な年配の貴婦人ミス・フロイと親しくなったものの、ミス・フロイは車内から突如失踪。ところが同じ客室にいたはずの他の乗客誰もが、そんな人物はいませんよ、と言い張る。どうしても信じられないアイリスは、同乗者の一人ギルバートを強引に巻き込んで、車内でミス・フロイを探し始めます。意味不明のさまざまな妨害を受けつつ、やがて真実に近づいた彼等の前に明かされるスパイ大作戦顔負けの国際的陰謀…!

ブイブイと車内を駆けずり回るアイリスの猪突猛進ぶりは、かの「涼〇ハ〇ヒ」みたいでおかしすぎ(キミ、はっきりいって、事件を喜んでるでしょ!)。そして、ギルバートと同じく、アイリスのせいでもかなり無理矢理事件に巻き込まれながらも、肝心なところでは以外と筋の通った行動をとるクリケット大好きおじさん二人がス・テ・キ。ようやくたどり着いたロンドンで、彼らに特別用意されていたオチも傑作。それと、ヒッチコック映画恒例の「監督チラッと出演」は、どの場面かな~? 要チェック! 【DVD 778.2ハ】



ガイドブックや写真集で、次のデートを2人で妄想だ!





## 図書館のイチオシ

新しい教室で  
どんな本読む？



世界珍名偉人録《ワニマガジン社》高井ジロル／著

『新しい世界地図』【G290.1/A】、『新しい日本地図』【G291.0/A】など数々のぶったまげ本を出している高井ジロル。ぜったいただの偉人録ではない、と開いてみたら…ほ～ら、やっぱり。いろいろなジャンルに分けて、珍名を持つ偉人をキョーレツイラストとともに簡潔に紹介している。例えば、「阿呆&馬鹿」のジャンルではゴルビーを支えたKGB最後の議長、ワジム・バカーチンを、「うんこなど」のジャンルでは大便とは関係ない男前のイタリア人ライダー、フランコ・ウンチーニを紹介している。それにしても、珍名の偉人ってこんなにいるんだね…。

【280.4/セ】



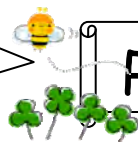
12歳の空《小学館》三船恭太郎／著



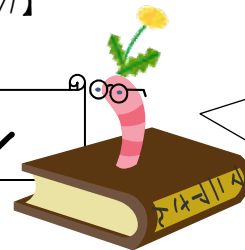
まずは、表紙めくって著者プロフィールの写真見てびっくりするハズ。そこには小学生の男の子が写っているノダ！この男の子、只者ではない。9歳で「ヘチマと僕とそしてハヤ」を書き上げ第2回12歳の文学賞・大賞を受賞している。ストーリーは、主人公の片思いが両思いになり、その後もずっとじれったい恋の話と、ハヤというオチョーシ者でちょっと暗い影の部分を持つ友だちとの友情の話。その清々しいほどのシンプルな表紙と、さわやかなタイトルのイメージだけで読み始めるなッ！油断してかかると、主人公のケースとハヤの小学生魂に他人から危ない人かと思われるほど、笑っちゃう内容だ。

【B913.6/ミカ】

連載決定！  
マニア好み  
ちっく？！



## PAPAのイチオシ



教科書でしょ？  
宿題は学校でや  
ってたなあ  
(遠い目)

悪魔の涎・追い求める男《岩波文庫》フリオ・コルタサル著

アルゼンチン出身で、主にフランスで活動したフリオ・コルタサルは、幻想と現実が交錯する作品を多数書いています。冒頭のショートショート風「続いている公園」は、今そこの「キミ」が読んでいる小説の世界と現実がブラックに溶け合うオチ。バイク事故で病院に運ばれ、ベッドに寝かされたと思っていたら、なぜか時空を超えてアステカ神殿の生贄台に乗せられ、心臓を石のナイフで…(!)と、イヤ過ぎる展開の「夜、あおむけにされて」。週末の夕方パリにもどる途中の高速道路で大渋滞に巻き込まれ、あんまり車が動かないものだから、隣のレーンを走っていたきれいな女の子とつきあい始め、そのうちドライバー同士のコミュニティーができちゃって、もうこのままみんな車上で新生活でもはじめましょか…なーんて、共同体幻想(妄想?)に至る「南部高速道路」。ほかにも、気分が悪くなると口から子兎をケポッと吐きだしちゃう(!)「パリにいる若い女性に宛てた手紙」などなど。クセモノ揃いの短編集だよ。



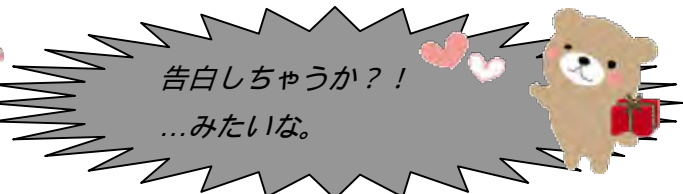
【B963コル(自動書庫)】



新学期は、かっこいい本を片手に、モチ度UP  
ねらい…っていう作戦で、いこうか。…だめ？







笑う英会話《彩図社》草下シンヤ、北園大園 / 編

参考書や、英会話本に載っている例文の中で、面白いものばかりを集めた本。味のあるイラストとナイスなコメントで、より英文を面白いものにさせている。英語にはあまり興味がなくとも、この本なら誰でも楽しめる。例えば「Their new baby is as cute as A button.」は「今度の赤ちゃんは可愛い」だが、これについてコメントは「前の子のことを思うと、涙が出そうになる」としている。他にも「サイモンは影がうすい」や「もう10年ばかりその庭には何も植えていないのに、ラッキョウだけは毎年生えてくる」などがある。本当に、参考書の例文?!



【B830.4/W】

恋の話を、しようか《小学館》三上康明 / 著

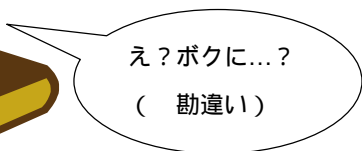
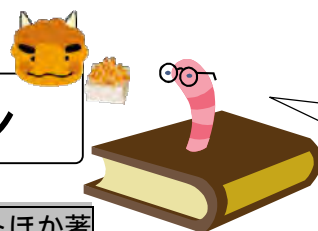


容姿端麗、頭脳明晰そして超個性的な高校生男女4人の恋模様。とは言っても4人とも通う学校はバラバラ。共通点は予備校、そして停電…。たまたまこの4人が予備校の教室で模擬試験をやっていた時のこと。ブレーカーでも落ちたのか、停電する。復旧するまでのわずかな時間で、主人公のミツルが「恋の話を、しようか。」と声をかけたことから4人の関係は少しずつ近いものになってゆく。ただ単純な恋愛小説というわけではなく、4人はそれぞれに複雑な悩みを抱えていて、少しずつそれぞれが警戒心を解いていきながら「停電仲間」という友情を築き上げていく様が、何とも言えず「青春」!

【B913.6/ミカ】



PAPAのイチオシ



ク・リトル・リトル神話集《国書刊行会》H.P.ラヴクラフトほか著

いわゆる「クトゥルー神話」のアンソロジー。今となっては古典ホラーのひとつと安易にまとめられそうですが、20年くらい前、何の予備知識もなく「クトゥルー」を読んだときの衝撃は...!この世界観を半ば本気で信じ込んでしまい、夜寝るのが怖かった(爆)。冷静に想像すると、登場する旧支配者の姿って、むかし懐かしの火星人やアマゾンの半魚人といった造型とあまり変わらないのだけど...。ともあれ、ラヴクラフトとそれに続く作家たちにより肉付けされていった、人間や文明の価値そのものに大きな疑念を抱く神話体系に、ホラー好きでなくとも一度ハマってみてはいかが?今読んでみても、「永劫より」と「博物館の恐怖」は...、いや、ちょっとこわかったな。ビクビク。



【933 ラウ(自動書庫)】

ミツバチのささやき [DVD] / ビクトル・エリセ監督

内戦終了間もないスペイン中部の小さな村、やってくる巡回映画、「フランケンシュタイン」との出会い、傷を負い小屋に隠れる共和国派の兵士、兵士をひそかに見舞う少女アナ、やがて小屋に響く銃声...。荒涼とした画面はどこまでも美しく、子どもらしいようなそうでないような、印象深いアナの瞳やしぐさ。映画評論でこの作品を低く評価する文章はいまだ目にしたことなし。とにかく主役のアナ・トレントを観るだけでも、約90分間を費やすに十分な価値ありまくり!!

【DVD 778.2ミ】

